

国際協カイニシアティブ(活動事例)

- **活動分野:** 教育協力モデルの形成
- **事業名:** 学校保健分野における国際協力モデルの構築と自立支援
- **団体名:** 大妻女子大学
- **実施期間:** 平成19～21年度
- **対象国:** ミャンマー 他

□ 活動:

開発途上国での子ども達の健康管理や学習環境の改善活動を通じて、学校保健分野における教員の能力向上に取り組む。

学校保健の改善について現地向けに整理した、『開発途上国のための学校保健改善実践マニュアル』を作成し、これを活用した研修等を実施することにより、医師不在の地域でも、教員が中心となって子ども達の健康管理や学習環境の整備を行える方法を教授する。

【ミャンマーの事例】

- (1) 全国6地域(州・管区)78校の小中学校に対して、研修を実施した。
- (2) 政府所管の教員養成大学(20校)、教育大学(2校)、民族大学(1校)の教員等に対して研修会を実施し、今後、その成果を教員が学生に対して教授することで普及を図る。

□ 成果:

【ミャンマー政府の対応】

- (1) 教育省計画訓練局内に本事業の普及を担当する『学校保健改善チーム』を設置した。
- (2) 政府所管の教員養成大学(20校)に本事業の普及を担当する教員(各1名)を任命した。
- (3) 強い影響力を持つ教育省計画訓練局長が、本事業で作成したマニュアルの活用を推奨する旨の呼びかけを行った。



□6つのプログラム

6つのプログラムを、各々の現場が状況に応じて組み換えながら、より取り組みやすく、効果の出やすいものから順に、そして体系的に実施していくことで、子ども達の健康状態・学習環境の改善などの効果を実感しながら取り組みを進める。

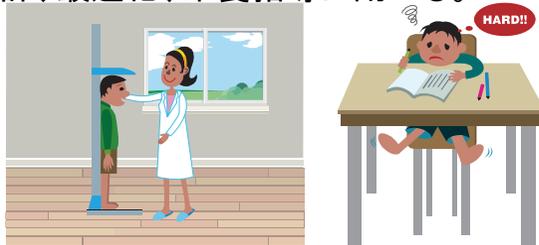
このプログラムではたくさんあるプログラムの中から以下の課題を優先して行う。

その際、AとBについては2年間の中で必ず行い、C以下のプログラムは選択して行う。

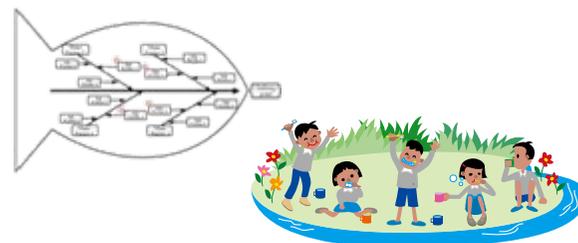
A. 学校保健改善チームの運営プログラム；
校長、教員、児童生徒、保健所職員、村人の参加薬や備品を揃えて、担当者を決める。



B. 保健室を設置して運営するプログラム；
子どもの発育・栄養状態、健康状態の観察・評価から始る。評価結果は、例えば、発育標準値(体格)、学校保健の統計、耳と眼の健康診断、机、椅子、黒板、トイレなどの設計、最適化、栄養指導に用いる。



C. HQCと生活習慣の改善指導プログラム
清潔、歯磨き、早寝早起き、規則正しい食事、運動、身の回りの片付け、水浴び、トイレの使い方、服装の指導をする。



D. 学校保健環境の改善 by HQC 法
飲み水、トイレ、教室内の明るさ、黒板の色、風通し、教室内の温度…などのチェックと改善をする。



E. 学校安全プログラムの作成、実施 by HQC 法
学校内の危険な場所や物の発見、地図の作成、先生と生徒による危険箇所の発見と改善のための提案、改善活動計画と実施、評価する。



F. 動植物育成プログラム by HQC 法
校長以下教員、児童生徒、農業教育の先生、村の人々と共に様々な動植物を育成する。鶏、魚、豆、野菜などを育成・収穫し、給食に用いることも出来る。





座高測定



聴力測定



危険箇所チェック

□測定の意味・考え方の伝達

(1) 授業についていけない子どもの中には、弱視で黒板の文字が見えていない、または難聴で先生の話が聞こえていなくとも黙ったままの子どももいる。簡単な健康診断で健康状態を確認し、こうした子ども達の席を前に移すなど、学習環境を改善する。

(2) 「なんとなく太り気味?」「だいたい見えている?」といった推測ではなく、健康診断等の数値に基づいて、子ども達の健康状態の管理や学習環境の整備を行う。

□測定・検査技術の伝達

高価な機材や健康診断に関する知識が乏しい教員にも簡単に実施できる健康診断の方法を教授する。

□測定・検査内容

- 教室環境(机・椅子・黒板等)の検査、場合によって照度、通風、湿度、騒音、塵埃
- 飲料水の水質検査
- 危険箇所のチェック
- 栄養・発育状態(身長、体重、座高、胸囲、皮下脂肪)の測定
- 聴力と視力検査

身長・座高測定の効果 →机・椅子の適正化と生活習慣の改善



猫背が...



真っ直ぐに！



- (1) 身長・座高を正しく測定
- (2) 測定結果に基づいて、学校は身体に合った机や椅子を供与
- (3) 保護者の理解を得て、家庭での生活習慣も改善

